

## ウイルス学会関連研究集会紹介

# 1. 第11回あわじしま感染症・免疫フォーラム

岡本 徹, 松浦 善治

大阪大学微生物病研究所

### あわじしま感染症・免疫フォーラムについて

あわじしま感染症・免疫フォーラムは、免疫学と感染症学が互いに研究内容を共有し、お互いの研究を発展させることを目的として、2001年から淡路島夢舞台国際会議場で毎年開催されています。今年は、9月11日から14日の4日間、海外から13名、国内から14名の活躍中の研究者をお招きして、参加者総数215名で行われました。このフォーラムでは高名な研究者による最新の研究成果に触れると同時に、ウイルス学、細菌学、寄生虫学、免疫学を基礎から学ぶことのできるトレーニングコースも行われ、異なる領域の相互理解を深め、若手研究者の教育にも力を注いでいます。また、アジア・アフリカ各国からトレーニングコース及びポスター発表に参加する若手研究者に対して、旅費の援助も行っています。

### トレーニングコース

フォーラムはトレーニングコースから始まります。ウイルス学は大阪大学微生物病研究所の塩田達雄先生が「ウイルスの細胞指向性」をキーワードにその戦略を紹介して下さいました。寄生虫学は岐阜大学医学系研究科の前川洋一先生が寄生虫学の総論を、免疫学は京都大学ウイルス研究所の藤田尚志先生が、自然免疫の分子メカニズムを最新の研究成果とともに講義をされました。細菌学は北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターから鈴木定彦先生が、肺

### 連絡先

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘3-1

大阪大学微生物病研究所

分子ウイルス分野

TEL: 06-6879-8343

FAX: 06-6879-8269

E-mail: toru@biken.osaka-u.ac.jp



結核に関する講義をして下さいました。トレーニングコース参加者には、昼食に最近話題のご当地グルメの淡路島牛丼が振る舞われました。

### 口頭発表

ウイルス分野では、EBウイルス、C型肝炎ウイルス、SARSコロナウイルス、マウスサイトメガロウイルス、ヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-1)、ヒトヘルペスウイルスI型(HSV-1)、さらには、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)など、そのウイルス種は多岐に渡り、ウイルス学的、免疫学的アプローチにより、ウイルスの巧みな戦略が紹介されました。Emory大のMocarski (Edward S. Mocarski)先生は、ネクローシスに關与するサイトメガロウイルスのタンパク質を新たに同定され、長年明らかでなかったcaspase-8ノックアウトマウスの耐性致死の原因がRIP3を介したプログラム化されたネクローシスによることを世界で初めて証明されていますが、本フォーラムでは、ウイルスによるアポトーシス/ネクローシスの制御を分かりやすく説明して下さいました。また、スタンフォード大のSarnow (Peter Sarnow)先生は、肝臓特異的なmicroRNAであるmiR-122がC型肝炎ウイルスの複製に重要であること、さらに、miR-122がコレステロール代謝

に重要な Insig-1 の制御にも関与していることを発表されました。カリフォルニア大サンディエゴ校 Zúñiga (Elina Zúñiga) 先生は、感染後速やかに排除される LCMV と持続感染できる株を用いて、LCMV が宿主の免疫機構を回避し、持続感染できるメカニズムを報告されました。

#### おわりに

その他に 97 題ものポスター発表があり、活発なディスカッションが行われました。初日にはウエルカムパーティーが、3 日目にはバーベキューパーティーが開かれ、様々な参加者と交流を深めることができました。来年は、9 月 10 日から 13 日の 4 日間行われます。大会長は東京大学医科学研究所の岩本愛吉先生です。皆様、奮ってご参加ください。

